

患者さん、ご家族の皆様へ

臨床研究「長谷川式認知症スケール HDS-R の『知識』（言語流暢性課題）得点は
認知機能低下の予測因子となり得るか」のおしらせ

この度当院では上記臨床研究を実施します。

この研究では、当院のもの忘れ外来を受診された患者さんの神経心理学的検査（主に初診時に実施される検査のうち、心理士が対面で行う数種類の質問紙に基づく検査）の中から、もの忘れの初期の段階において、認知機能の低下の程度をなるべく正確にとらえるための手掛かりとなる可能性のある検査項目について、その特徴を分析します。

認知機能低下の早期の段階での介入や治療が目指されている現在、同時に早期発見のための画像や髄液などを用いた医学的な研究も盛んにおこなわれていますが、神経心理学の分野でも同様に、なるべく患者さんの負担になることなく、軽微な機能の低下を見落とさず検査結果を活かしていけるようになることを目的としています。

研究の対象となる可能性のある患者さん

2018年7月～2022年6月の間に当院神経内科もの忘れ外来を初診された患者さんで、神経心理学的検査を実施している方

分析の対象となる項目

初診時の年齢・性別・教育歴、神経心理学的検査のうち、MMSE・HDS-R、MoCa-Jと呼ばれる検査の得点、MRI 検査結果 を主な対象とし、患者さんのお名前をはじめ個人を特定できるような情報を切り離したうえでデータのみを統計的に解析します。

これらの項目はすでに保存されているカルテ等の情報および、保管されている過去の神経心理学的検査のデータを用いるため、この研究のために新たに特別な検査等を行うことはありません。個人情報の管理については研究責任者の責任において、漏洩等のないよう十分に留意し、情報の外部への提供等はい行いません。

本研究の対象となる可能性のある患者さんで、ご自身のデータを研究に利用されることを希望されない方、またご質問のある方は下記問い合わせ先までご連絡ください。

問い合わせ先

国立病院機構まつもと医療センター TEL 0263-58-4567（代表）

研究責任者：臨床研究部 心理療法士 中村直子

※この研究は当院の倫理審査委員会の承認を受けています。

研究実施期間 2022年10月 ～2026年3月31日